

【堆肥施設の紹介コーナー】

耕畜連携の先駆け

備前県民局 畜産班

小林牧場は、岡山県の南東部の和気町にあり、昭和46年に養鶏農家から子牛7頭で肉用牛農家に経営転換され、平成7年に有限会社小林牧場を設立されました。

今回は、家畜排せつ物を耕種農家と連携し有効に利活用している先駆者としてご紹介します。

小林牧場は、現在、和気農場に5,000頭、石蓮寺農場（赤磐市）に1,000頭の計6,000頭の肥育牛を飼養しています。これらの牧場から約80t/日のふん尿が排出され、約40t/日の堆肥を生産しています。堆肥は戻し堆肥（敷料）や稲わら交換、そして2/3が耕種農家に仕向けられています。

大型畜産経営を健全に営むためには、家畜のふん尿の円滑な処理と利活用が、生き残りの必須条件であり、耕種農家に喜んで使ってもらえるように良質な堆肥の生産に努められています。効率的に堆肥を生産するために、スクリュウ式堆肥攪拌発酵機2基を導入し、1ヵ月間隔でぼろ出しし、スクリュウ式堆肥攪拌発酵機で約40日間初期発酵させ、通風の良い高屋根の堆肥切り返し型堆肥舎へ移し、計約6ヵ月間の発酵期間を経て製品となります。



＜スクリュウ式堆肥攪拌発酵機＞

また、平成17年からは、飼料に納豆菌

や乳酸菌を添加したり、飲料水にも酵素系脱臭剤を添加し、堆肥の臭気軽減にも努められています。

平成17年4月に和気農場の一角に、堆肥利用者がいつでも積み込み可能な堆肥置場を設置され、近隣の耕種農家が利用しだし、今ではロコミで県北や兵庫県からも利用に来られます。石蓮寺農場の堆肥置場も併せて、1日約20tの堆肥が利用されています。

この利用方法は、利用者が自力で持ち帰る場合は無料、軽トラ等に積み込んでもらう場合は1,000円/車となっています。



＜平日でも積み込み待ちの軽トラ＞

稲わらは、肥育牛経営にとっては貴重な粗飼料資源であるため、最初は耕種農家に収集・運搬して持ち込んでもらっていましたが、耕種農家の負担が大きいため、平成14年からは収集用機械を導入し、労力を軽減しながら堆肥と交換に大規模な稲わら収集に切り替えていきました。平成21年から運営体系を変更して、収集時期が限られているため、臨時雇用者数名で小林牧場が稲わらの収集、堆肥散布をされています。

平成19年からは町内の耕種農家と連携して、堆肥を利用した飼料用米の生産に取り組んでおられます。